東洋公衆衛生学院 同窓会　会報　第10号

発行　〒151-0071　東京都渋谷区本町 6-21-7　東洋公衆衛生学院　同窓会　事務局
Tel 03-3376-8511 Fax 03-3376-4345 E-mail yama@toyo-college.ac.jp

コンテンツ

１　年頭のご挨拶　同窓会　会長
２　コロナ禍の１年を振り返って
３　令和２年度卒業式挙行
４　同窓生からのメッセージ
　東洋公衆衛生学と私
５　医療界で活躍する卒業生
６　令和２年度同窓会総会告示

年頭のご挨拶

同窓会　会長　小野寺　浩幸

新型コロナ肺炎の流行が始まってから約一年、未だ終結ポイントは見えていませんが、ワクチンの接種も始まっていることから幾分明かりが見えてきているものと考えます。

この流行り病が社会に与えた影響は大きく、いままでの社会生活を大きく変化させてしまいました。

ともすれば人との触れ合いが希薄になってしまうようなご時世でありますが、こんな時こそ人と人との繋がりを大切にしなくてはいけないと思います。

社会生活の変化のせいで学業を続けることが難しくなった学生が増えてしまっていると言います。同窓会として何か力になれることはないかと考えていますが、そのためには同窓生の皆様の協力がぜひとも必要であると考えています。

同窓生においても、所属する医療機関の感染症対策の変化などで勤務も困難の度を増しているのではないかと思いますが、遠からじ流行は収束していくものと信じて頑張っていただきたいと思います。

大きく変化してしまった生活様式のもとでも生き生きと過ごし、医療のために皆様がさらなる尽力をされることを願って新年の挨拶とさせていただきます。

コロナ禍の１年を振り返って

「病院の状況」

同窓会　副会長　清水　賢均

私の勤務している病院は、１３３床の中小病院であり、健診センターも併設している。昨今の新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、政府の緊急事態宣言都度に患者・受診者の減少と収益の悪化、また最近では入院患者の新型コロナウイルス感染発症による院内感染拡大、それに伴う入院の制限と救急業務の停止によるさらなる収益の悪化、と病院経営的にはまさに、悪夢な状態であった。

現在は、院内感染も落ち着き入院、外来患者も徐々に増えている。また、社会的な要請も鑑みて、新型コロナウイルス感染患者の入院も受け入れることとなった。健診センターにおいては、自粛の皺寄せによる年度内の駆け込み受診により、盛況している。

日々「正しく恐れる」ことを念頭に、感染対策を施し、平時の状態に回復する日を心待ちにしながら業務に勤しんでいる、今日この頃であります。みなさまもご自愛いただき、この難局を乗り越えていきましょう。

「学校の状況」

臨床検査技術学科　青柳　ますみ

新型コロナウイルスの蔓延に伴い、前年度の卒業式も縮小形式で行い、新年度に入り、夢を持って『さあ！始まり！』と思った矢先に出された緊急事態宣言。結局、入学式も中止となり、１年生はにわかの仕立てのガイダンスのみで新入生の顔もよくわからず、教員も学生も課題やビデオ講義、online 講義に翻弄されました。

２年生も新学期当初から送付された課題に取り組み、途中から online 講義が開始されました。３年生は４月から予定されていた臨地実習が中止や延期になり、やはり課題学習に取り組みました。緊急事態宣言が解除された６月以降、講義は学内からの配信の online 講義になり、３年生の臨地実習も可能な施設は開始されました。学内でも暑い中、窓を開けたまま、マスクをしたままでの苦しい実習や寒くなってから手をこすりながらの授業が段々普通になっていきました。

今まで当たり前だった日常が当たり前でなくなり、そして人との関わりが少なくなり、慣れないパソコン操作に苦戦し、ある学生は『ただ１つ良かったことは自分自身の時間が増えたこと。』と話をしていました。学生は online の講義内容についていくことができるか、実習はどのように行うか、いつもより多く考えさせられた１年でしたが、ほとんどの学生は新しい学年へと進級していき、また、３年生は無事国家試験を終えました。その後の卒業式は縮小卒業式でしたが、国家試験の点数は皆合格点を超えており、このような状況の中でもよく頑張ったと思います。３月23 日の合格発表が楽しみです。早くこんな時もあったと、語りたいものです。

診療放射線技術学科　田中　宏和

コロナウイルスとの共同生活も１年が過ぎ、学校での過ごし方にも変化が見られるようになった。教務課には教員の机の間に、教室では学生の机の前に衝立が設置され、圧迫感を極めている。前号では前期期間のコロナ対応策をご紹介させていただいたが、幸いにも学校関係者にコロナ患者及び濃厚接触者は出なかった。

後期、年末年始の第三波で遂に学校関係者でもコロナ患者が出た。それに伴い濃厚接触者対応も必須になり、後手になりながらもなんとか授業・試験を終えることができた。

年始からは体調不良者が出れば自宅待機、濃厚接触者になれば２週間の外出禁止、学生の本意ではない登校禁止措置を取らざるを得ない状況が発生した。その間、学校としてはオ

ンライン授業やテレワークに切り替えることはなく、学校での対面授業を継続した。そこで学校が実施したのは、常に授業をリアルタイムオンライン配信・録画する措置であった。

登校できる学生は教室で対面授業、自宅待機者は自宅でオンライン授業形式にて同じ授業を受講できる環境を整えた。黒板の文字が読み取れる高精細なカメラの準備や教員はヘッドセットを付けて授業をするなど、学生がどちらの受講形式でも授業に参加できた。オンライン配信を録画することで、対面授業の学生も後から動画で復習できるというメリットも発生し、高い学習効果も同時に得ることができた。

コロナによって学生も教員も試行錯誤を重ねた 1 年になった。次年度以降もコロナと共生していくには今年度の経験を踏まえて、さらに環境を整えていく必要性があると強く感じさせられた。

「同窓会活動の状況」

事務局　山口　聡

令和元年度同窓会総会終了した矢先、最初の緊急事態宣言が発令された。新年度の開始から with コロナの制約の中で活動を余儀なくされ、解除後も感染防止の観点から計画されていた行事は殆ど中止せざるを得なかった。定期的に実施している年３回の役員会は全てメール審議で対応し急場は凌げたものの、活発な意見交換ができたかという点については、反省すべきこととして上げられる。

そのような中でも在校生に対して、コロナ対策の支援を迅速に決定し届けることができたこととは、同窓会としての役割を果たせたものと感じている。さらに、会報誌の発刊を計画通り実施したこと、役員改選・会則の見直しを行い、コロナ禍を乗り切るための体制を整えることができたことは成果としてあげられる。

一方、事業として掲げている奨学金基金、卒業生への支援については遅々として進まなかったことにつては、役員全員は襟を正し、立案計画に取り組み、実直に進めることが求められる。来年度もコロナの影響が残ることを前提として、感染予防を徹底した上で、リモートによる会議、対面による会議も併用し、活発な議論を再開したいと考えている。

令和２年度卒業式挙行

２度目の緊急事態宣言がされるなか、臨床検査技術学科第 53 期生 33 名、診療放射線技術学科第 39 期生 63 名の卒業式が３月３日（水）ハイアットリージェンシー東京 にて挙行されました。

卒業生および保護者の健康面、安全面を考慮し、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、残念ながら保護者の皆様の会場への入場はできませんでした。卒業生は保護者への感謝とこれからの期待と不安が入り混じる心境だったと思いますが、晴れやかな姿で卒業式に臨んでいました。卒業生の今後の大いなる活躍を期待しています。

『東洋公衆衛生学院と私』

36 期　臨床検査技術学科　　岩谷　あゆみ

進路を決めるために調べていた際に臨床検査技師という職業を知りました。このような職業もあるのだと興味を持ち、東洋公衆衛生学院へ進学を決めました。高校時代から生物は得意でしたが、専門性のある授業内容が理解できず入学当初は苦労しました。レポートの提出に追われ徹夜をした苦い記憶もあります。在学していた３年間は必至に勉学に励みながらも、時には同級生と新宿で買い物やお茶をしながら愚痴を言い合い大変でしたが楽しい日々でした。

２年生の夏休みに健康診断の手伝いを募集しており、アルバイト代が出るとのことで山梨県まで泊まり込みで行きました。授業以外のしかも同級生相手以外の検査をするのは初めての事で、実際に健康診断にきた方を相手に緊張しながら心電図や尿検査など、手伝いで学ぶことも多く大変貴重な体験でした。学院以外から看護学校の学生も来ており、交流もとても楽しく良い思い出として残っています。

現在は遺伝子検査室に在籍し臨床検査技師として働いています。学生の頃は遺伝子学が苦手だった私が、この検査をすることになるとは、当時は想像もできませんでした。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、これらの抗原検査 PCR 検査が現在の主な業務になりつつあります。今は思うように動けない日々が続いていますが、学生時代は今だけなので、少しでも多くの楽しい思い出を作っていただければと思います。

３０期　診療放射線技術学科　　山崎　舞

18 歳の春に上京し不安で胸がいっぱいのまま入学しましたが、いざ学校生活が始まってみると様々な地域から様々な年齢の人達が「放射線技師」という同じ夢に向かって集まってきているという環境がとても心強く思えました。

試験や実験、レポート提出など時には難しく苦しい事もありましたが、皆で切磋琢磨し協力し合いながら乗り越える事が出来ました。

その中でもやはり病院実習は初の臨床現場で先輩技師の方々と共に患者対応する事にとても緊張しました。あの独特の緊張感は今も鮮明に思い出すことが出来ます。

３年間という限られた時間の中で先生方や同級生と過ごした日々は、確実に今の私の土台となり大きな糧となっています。この濃密な３年間で親しくなった友人達とは今でも交流があり、飲み会や夏には BBQ 冬にはスノーボードとリフレッシュを共にしています。

～　最後にコロナ禍で日々奮闘している
医療従事者の仲間たちへ…　～

日々のプレッシャーの中、大変だと思いますが希望を忘れずに今という時代を共に戦い抜きましょう!!

医療界で活躍する卒業生

医療界で活躍する卒業生として、当学院卒業生の活躍を報告する場として企画しました。この度、学会（協会）での受賞報告がありましたので掲載いたします。
（掲載にあたっては本人の了承を得ています）

臨床検査技術学科　第 20 期生
間瀬　浩安　さん（東海大学医学部付属病院）
日本医療検査科学会（旧自動化学会）
2020 年度優秀論文賞
タイトル
「ポリマー剤とカーボン剤を併せた固相抽出法による高極性有機リン化合物およびカーバメイト化合物の同時抽出法の開発」

臨床検査技術学科　第 26 期生
手塚　裕子　さん（成田センタークリニック）
日本糖尿病協会
2019 年度
日本糖尿病協会療養指導士賞　臨床検査技師部門
(JADEC Award for Excellent Diabetes Educator)
糖尿病療養指導の発展に尽力している医療者が表彰されます。

今後、卒業生で学会賞や認定資格取得などありましたら、ご投稿ください。

令和２年度　東洋公衆衛生学院 同窓会総会告示

標記について、下記要領にて開催いたします。
同窓会　会長　小野寺　浩幸

記

日　時：令和３年４月３日(土) 13:30～14:30
場　所：東洋公衆衛生学院 臨床検査技術学科校舎
　　東京都渋谷区本町 6-21-7
総　会：①令和２年度経過報告
　　②令和２年度会計および監査報告
　　③第一号議案 令和３年度事業方針(案)
　　④第二号議案 令和３年度予算(案)
　　⑤その他

※尚、葉書での総会案内は行いませんので、
職場･同窓生への周知をお願いします。

コロナ対策支援として目録の贈呈　（2020 年 11 月）
（左　理事長　蓮江正道　先生　右　同窓会会長　小野寺　浩幸）

同窓生からの原稿を募集します！
同窓会会報を同窓生のコミュニティの場にしませんか？
卒業生の活躍を掲載したいと思います。
広く原稿を募集していますので、下記メールアドレスまで投稿して下さい。
facebook でも情報発信中
@toyoCollegeAlumni

【編集後記】

昨年の発刊した第 8 号(2020.3.12)の編集後記では、あえて新型コロナウイルス（コロナ）のことには触れず、東京オリンピックの期待感だけに言及しました。まさか 1 年後にまたコロナの話題に触れるとは考えてもみませんでした。しかも、第 3 波による 2 回目の緊急事態宣言も経験しました。感染拡大防止の切り札としてワクチン接種も始まりましたが、変異株なども検出されるようになり、ワクチンが効くのか効かないのかわかっていませんし、この先どうなっていくのか見通しが立たず困ったものです。

さて、第 10 号では、卒業式の様子やここ 1 年コロナに対する学院の取り組みや OB から現場の対応、さらに同窓会事務局からの対応も掲載しました。コロナ感染拡大によってできなくなったことや、逆にコロナがもたらしたもの(Web 会議やリモートワークなど)があります。Web 会議は便利だなと思っています。

一個人の考えではありますが、「5 つの場面」の感染リスクに注意して生活しながら、一日でも早く以前のような日常を取り戻したいと願っております。

編集委員長　国仲

東洋公衆衛生学院　同窓会事務局
151-0071　東京都渋谷区本町6-21-7
電話番号　03-3376-8511　FAX番号　03-3376-4345
メールアドレス: yama@toyo-college.ac.jp

いますぐホームページをチェックして下さい。